

ボランティア Osaka

発行 (獨)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・
市民活動センター

Vol.33
2003 Summer



『特集』

活
発
化
す
る
市
民
レ
ベ
ル
の
国
際
交
流



市町村ボランティア連絡会 総会



Hello! ボランティアセンター



まだ間に合う！

夏のボランティア体験プログラム 参加者募集中

ボランティアに関心はあるけど、どうしたらいいのかわからない…

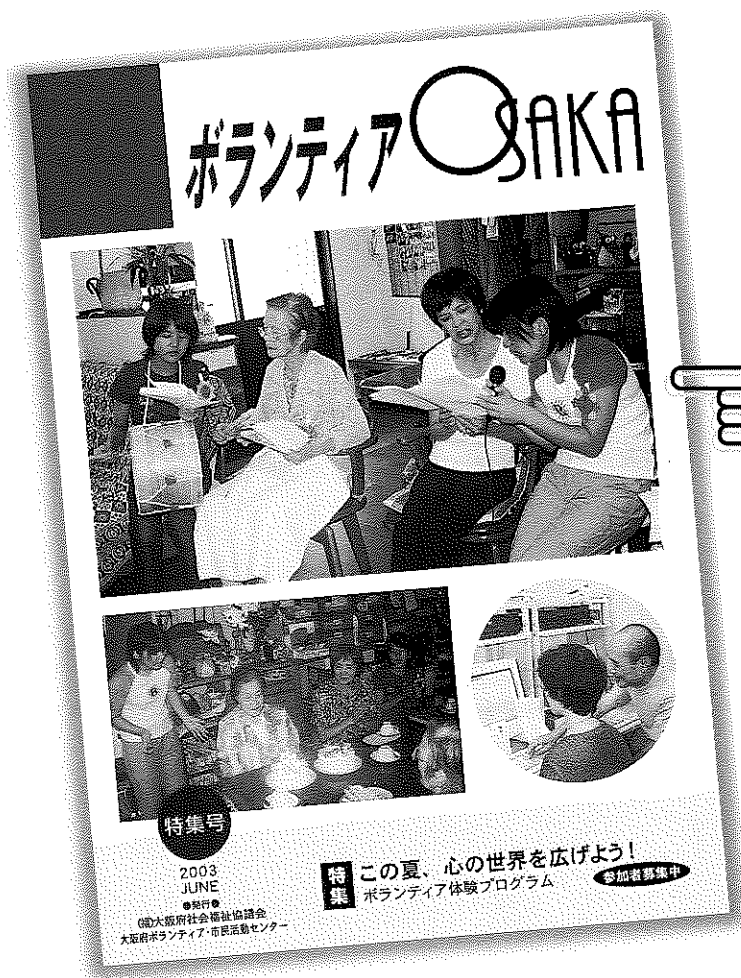
そんなあなたにうれしい情報です。

大阪府ボランティア・市民活動センターでは、市町村社会福祉協議会との共催により、
今年も7月から8月にかけて「夏のボランティア体験プログラム」を実施します。

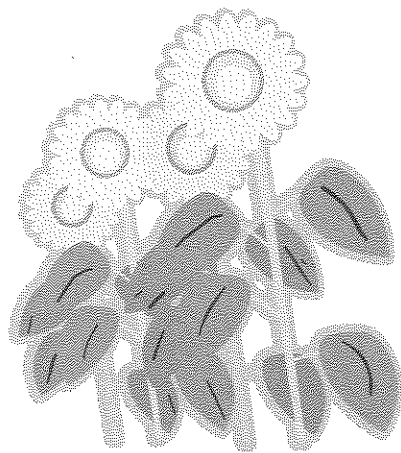
活動先は大阪府内の福祉施設やボランティアグループ・NPO団体など。

イベントに参加、日常業務のお手伝いなど、いろいろなプログラムが用意されています。

ボランティア活動を通して、さまざまな人とふれあい、自分以外の人たちや社会に心を開き、
視野を広げてみませんか。



大阪府ボランティア・市民活動センター、もしくは地元の社会福祉協議会ボランティアセンターに、約460のプログラムを紹介する冊子を用意しています。
お気軽にお問い合わせください。



大阪府ボランティア・市民活動センター

TEL 06-6762-9631

特集

活発化する 市民レベルの国際交流

いま、日本には170万人以上の外国人が暮らしていると言われます。かつて日本に暮らす外国人は、その9割が韓国・朝鮮籍、および中国籍であったそうです。しかしいまでは、いわゆるニューカマーと呼ばれる人たちがアジア・ラテンアメリカなどから多数来日し、いよいよこの国もグローバル化。それと同時に、この人たちの「日常生活をいかに支えるか」という問題も、大きな社会的テーマになってきました。

一般に、ニューカマーと呼ばれる人た

ちにとっては、「言葉」、「制度」、そして「心の壁」の3つの大きなバリアが存在すると言われます。そこでこうしたバリアを少しでも取り除き、外国の方たちの生活支援と積極的な社会参加を実現させるための、市民レベルでの国際交流も最近では活発になってきました。

そこで今回は、こうしたテーマに取り組む個人・団体を取材しながら、草の根の国際交流について考えてみたいと思います。



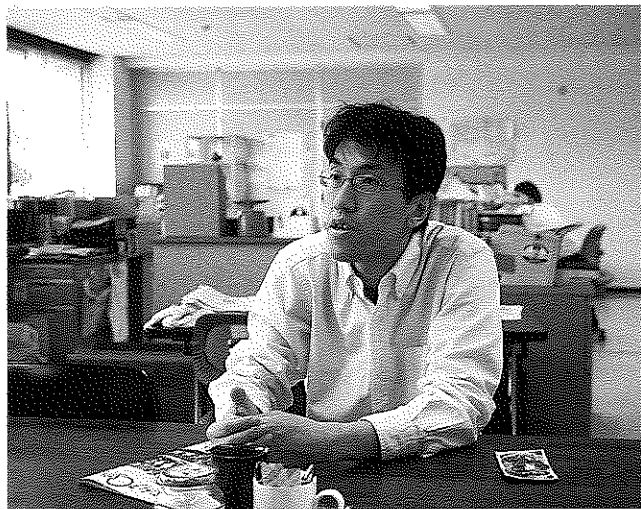
リユック一つで5年間、海外を放浪した青年の 熱い思いから始まった多彩な活動

NPO法人 多文化共生センター

大阪市港区築港2-8-24
pia NPO401号
TEL 06-4395-1377

震災の5日後には、 早くも本格的な活動をスタート

95年の1月17日、忘れもしないあの阪神・淡路大震災が起こりました。以降、多くのボランティアが現地に駆けつけ、実にさまざまな活動に取り組んだことは皆さんもご存じのことと思います。



「震災では等しく被害を受けたのに、外国人は等しく救済されないことに疑問を持ったんです」と語る田村さん

そんな中、1月18日には早くも活動の準備を開始し、23日から本格的に「外国人被災者のための電話相談やニュースレターの発行」などの活動に着手したグループがありました。当時、まだ20代半ばだった田村太郎さんを中心とする「外国人地震情報センター」がそれで、現在の多文化共生センターの前身にあたります。



ニューカマーの人たちと楽しいワールドフェスティバル

兵庫県の高校を卒業した田村さんは、大学に進まず、18歳から5年間ほど海外を渡り歩いていたと言います。その頃はまさに世界の激動期。「高3の5月に天安門事件があり、10月にベルリンの壁が崩壊した。そんな時代だったから、すんなりセンター試験を受ける気にならず、世界をこの目で見てやろうとリュックを担いで中国に行ったんで

す。卒業後は清岸戦争時のアラブ、アルバルト・ヘイトの南アフリカ、そして国際先住民年にはアンデスに行ったりしていました。考えてみれば、これが現在の活動の原点になったのかもしれない」と田村さん。

そして帰国後、大阪で外国人向けのレンタルビデオ店で働いていたときに震災が起こります。「仕事柄、被災者に多くの外国人がいるだろうことは容易に想像がつかしました。だから自分も、救援物資を持って神戸に行きたかった。しかし待てよ、と考えたんです。それよりも、おそらく被災した外国人の方たちは情報に飢えているだろう。ならば僕たちがそれを担おう！と考えたんです」。

店の社長の理解もあり、田村さんは仲間と、7言語による電話相談の活動を開始。KDDやFM802、英字新聞などの協力もとりつけ、地震から数日後の1月23日から、本格的な活動を開始しました。

外国の子どもたちのためのCD 「多文化子どもの歌集」を発行

活動は予想以上の広がりを見せ、「緊急支援」が一段落した95年の秋、名称を「多文化共生センター」に改め、彼らは現在のきわめて多彩な事業の一つひとつに着手していきます。いま田村さんたちの活動は、多言語での電話相談をはじめ、通訳・相談員を派遣する派遣事業、多言語で健康診断を行なう医療保健プロジェクト、また外国人のためのコンピュータセミナーや、子ど

もたちのためのCD
「多文化子どもの歌集」
の発行、そして調査・
研究活動…など、きわ
めて多岐に渡ります。ま
た活動の拠点も、大阪、
兵庫、京都、広島、東京
…と全国的な広がりを見
せ、2000年8月には
NPO法人格も取得。
まさに急速に組織を拡大させてき
たと言っていいでしょう。

その理念は「国籍による差別のない
基本的人権の実現」「民族的・文化的少
数者への力づけ」「相互協力できる土壌
づくり」の3つで、「この理念に共鳴し
てくださる方なら、これからまどん
ん門戸を開放していきます」と田村さ
んは語ります。

事業規模もいまでは年間約8000
万円、週のうち100〜200人は活
動するというボランティアが、5人の
常勤、25人の非常勤スタッフを支えま
す。

ひとりの青年の熱い思いをきっかけ
に、ここまで組織が大きくなってきた
多文化共生セ
ンター。この
ことは、それ
だけ彼らの活
動を定住外国
人の人たちが
必要としてい
ること…を物
語っているこ
とに他なりま
せん。



調査・研究もまた、同センターの大切な事業

関西における国際NPOの一大拠点 piaNPO

昨年9月、大阪市港区の海遊館近
くに、主に国際交流などに取り組む
ボランティア・NPOが入居するp
iaNPOという施設がオープンし
ました。大阪市港湾局の建物を改装
したもので、国連、政府機関から、
大学や行政、全国のNPO/NGO
の情報を収集し、広く市民に国際交
流・協力関係の情報提供を行ないな
がら、市民活動をバックアップしよ
うというもの。館内には、右記の多



昨年9月6日に開催されたオープン記念シンポジウム

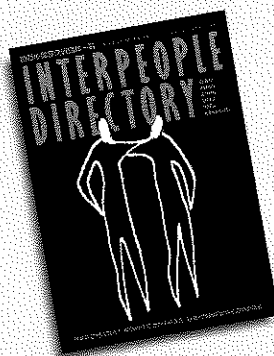
文化共生センターをはじめ、人権
環境、開発、文化交流などに取り組
む20のNPOが入居しています。4
階、6階は貸会議室で、同時通訳設
備もあり、200人規模の国際会議
から小さな会合までが安価に開催で
きるのが特徴です。まさに関西にお
ける国際交流の一大拠点と言える施
設です。



その運営
を担当して
いるのが関
西国際交流
団体協議会
というNPO
で、この
団体には、
豊かな地球
市民社会・



関西国際交流団体協議会事務局長の
有田典代さん



関西国際交流団体協議会
piaNPOオフィス
TEL 06(4395) 1124

多文化共生社会の実現をめざす、関
西2府4県の160の国際交流団
体が加盟しています。

この4月には、関西に本拠を置く
510団体を掲載した「関西の国際
交流団体一覧」(CD-ROM付)を
発行。関西の国際交流を、そのベ
ースで支える多彩な活動を展開してい
ます。

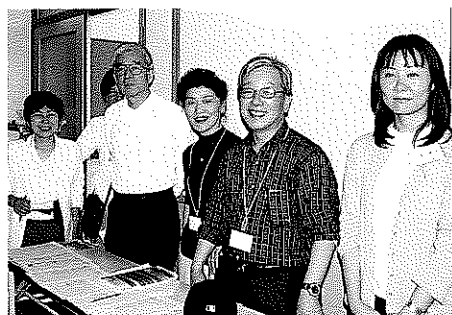


多文化共生センターも入居するpiaNPO

学校の同窓会がNPO法人を立ち上げて、外国人のための日本語教室を開講

NPO法人 市岡国際教育協会

大阪市港区市岡元町2-12-12
大阪府立市岡高等学校内
TEL/FAX06-6582-0348
(金曜の午後6時~9時)
金曜以外は
TEL06-6583-3687
(谷口方)



右から2番目が中山副理事長、左端が理事の谷口さん



定時制課程の 「生徒募集停止」をきっかけに

毎週金曜日の夜、大阪市港区にある府立市岡高校に大勢の外国人の皆さんが集まっています。ここでは平成8年より、外国人を対象にした日本語教室が開かれており、毎週、70~90名もの外国の方々が「登校」してきます。

参加者の出身国は、中国、台湾、ベトナム、ブラジル、アメリカ、イギリス、カナダ、インドネシア、タイ、ペルー……と実にさまざま。そしてその数を上回るボランティアの皆さんが、マン・マンで日本語を教えます。

この活動は平成7年、市岡高校定時制の廃止決定がきっかけでした。同校の定時制課程は「日本で最初の普通科夜間中学」に始まる伝統があり、多くの若者が「夜に学び」社会に巣立っていきました。そこで、「夜の学び舎をなんとか残せないか」という声が上がリ、定時制の同窓会「田龍会」が中心になり、この「日本語教室」が始まりました。

「国際化社会の中で、いま多くの」日本語を必要としている外国人が港区をはじめ大阪市内には数多く在住しています。ならば、そうした人たちのための夜の日本語教室が開けないものかと考えたわけです。当初は、学習者、ボランティアが10人も来てくれれば成功……と考えていました。ところがスタートしてみると、予想以上の皆さんが参加してこられた。嬉しい誤算でしたが、あらためてニーズの大きさを知らされました。そこで、これはより本格的に取り組む必要があると判断し、学校はもちろん、全日制同窓会やPTAの協力もいただき、平成11年4月にはNPO法人・市岡国際教育協会を設立。いまではオール市岡の取り組みとして行っているというわけです」と同協会の副理事長の中山政夫さん（66歳・定時制課程をS31年卒業）は語ります。

学習者の、必死に学ぼうとする姿勢がひしひしと伝わってきます

活動は、毎週の

日本語教室に加え、七夕まつりや天保山まつり、チャリティーバザーやボーリング大会、ハイキングや体育大会など、楽しいプログラムも盛り込まれ、そんなときはまさに、楽しい「草の根国際交流」の光景がくり広げられます。「もともと我々は、英語はできないけれど大阪弁ならできると軽い気持ちで始めただけに、肩肘張らない、ザックバランな雰囲気がいじけると思います」と中山さん。

一方、「生徒さんのなかには多くの留学生もいますが、子どもを外国に送り出す親が一番心配するのは、やはり病気や事故のとき、言葉の壁で大変なことにならないだろうか……ということだと思っんです。まだ日本語を十分に習得していない学習者に接するとき、必死に学ぼうとする姿勢がひしひしと伝わってきて、あらためて日本語を指導する責任を感じます。そして心から、日本での生活を応援してあげたいという気になりますね」と理事の谷口豊子さん。

いまでは、学習者の出身国は延べ30か国に及び、ボランティアの数も150名以上に。全国でも珍しい、学校の同窓会が立ち上げたNPO法人の素敵な国際交流活動です。



ミクロネシアの小島に 文房具などをプレゼント

大阪市立波除小学校

大阪市港区波除3-6-8
TEL06-6583-4000

オーストラリアのヨットマンの
呼びかけに、
日本の子どもたちが応える

5月12日、大阪市港区の市立波除小学校で、二人のオーストラリア人を招いた小さな催しが開かれました。

それは、太平洋に浮かぶ小さな島、ウルル島の人たちに送る文房具を手渡すセレモニーです。託されたのは、オーストラリアから大阪を目指すヨットレースに参加したロビン・ブルックさん（47歳）とコリン・スミスさん（50歳）。国際交流をテーマにした総合的学習の時間を利用し、6年生96人は二人からヨットレースとウルル島の話を聞いた後、このセレ



航海の様子を話すロビンさん（右）とコリンさん（左）



地球儀で、東山校長に今回の航路を説明するロビンさん

モニーは行われました。

ことの発端は、このヨットレースに参加したジョージ・ショウさん（61歳）とブルックさんの船（ブーツ号）が、台風を避けるためミクロネシアのウルル島に一時避難したのがきっかけです。

島民の助けを得て島に上陸したブーツ号の二人は、サンゴ礁に囲まれたこの島には店がなく、電話も郵便局もないことを知ります。人々はタロイモを主食に、付近の島と無線連絡をとりながら暮らしているのだそうです。

服装も、男性は腰に小さな布を巻いているだけ。そして



自艇をバックにボートに立つコリンさん。大阪北港ヨットハーバーにて

PTAも協力し、集めた文房具は 段ボール4箱分

そんな中の一島で衛生と福祉を担当しているヘンリーという青年が船にパソコンがあることを知り、「メールOK?」と聞いた後、アメリカの友人に「文房具がないので送ってほしい!」とSOSを発信したのだそうです。

ほとんど偶然ですが、子どもたちには格好の総合学習の時間となり、また意義深いボランティア体験となりました」と東山校長。文房具とともに手紙や写真を二人に託した子どもたちも「私たちのプレゼントが島の子どもたちの勉強に役立てば」と嬉しそうに語ります。

オーストラリアのヨットマンの善意と、それに応えた日本の子どもたちの善意が、ウルル島の人たちも含めた素敵な国際交流に発展しそうです。

この日は都合で、ブーツ号の船長であるショウさんは参加できなかつたものの、ブルックさんとスミスさんは、「島の人たちはこの件をまったく知らないの、再び島に立ち寄りプレゼントを手渡



話の後は、子どもたちと一緒に記念撮影



草の根レベルの国際交流

和泉国際交流会（ICIX）は

いまから8年前、市内に在住する外国の方々との

交流を目的に結成された

草の根の市民団体です。東節子さんは

その副代表であり、

約10年間の海外生活の経験を活しながら、

館の「おはなしたまてばこ」というプログラム

「おはなしたまてばこ」というプログラム

和泉国際交流会

おはなしたまてばこ
東 節子さん

和泉市いぶき野5-1-7
和泉ボランティア市民プラザ
アイ・あい・ロビー気付
TEL0725-57-0294



第16回
和泉国際交流パーティー
主催：ICIX（アイシックス）

などで、文字通り「市民レベルの国際交流」に取り組んでいます。

ICIX（アイシックス）の発足は95年にさかのぼります。きっかけは、和泉市が行った、姉妹都市であるブルーミントン市（米国）や南通市（中国）からお客様を招いて開催した国際交流の催しでした。そのときは多くの和泉市民がボランティアとして活躍しました

が、催しが成功裡に幕をおろした後、通訳ボランティアや文化ボランティアとして活動した人々を中心に、「こうした交流を日常的に、かつ市民レベルで継続していけないものか」という声があり、

95年の4月、正式に発足しました。以来、会員も徐々に増え、現在は75名、年齢層も23歳から85歳までと幅広く、その住まいも和泉市だけでなく、堺市、泉大津市、貝塚市、泉南市などに広がり、泉州全域の活動に成長しつつあります。活動プログラムとしては、まず年2回（1月と7月）開催される交流パーティ。これには毎回100人以上が参加し（内、外国は約3割）、ワイワイガヤカヤ、

外国の文化を知ることは、 日本文化の再発見につながります。

歌や踊りも飛び出す楽しいひとときを過ごします。そして毎年9月になると、英語の暗唱大会が開かれます。ここでは語学力に応じてクラス分けが行なわれ（参加者は幼稚園児から高齢者まで）、各クラスとも上位3位までが表彰されるといふもので、毎回ほほえましい受賞シーンが見られるとか。

その他、交流セミナーは毎月のように行なわれ、外国人による料理教室、韓国と日本の伝統文化のお話、英語による紙芝居の上演、会員による海外生活の報告等々、楽しいプログラムが企画されます。

「いま、和泉市には約2000人の外国の方がいらつしやると聞きますが、よその国で暮らすというのは、やはり何かと不安で不便なものです。私自身も経験しましたが、そんなときに地元市民と気軽に交流できる環境があれば、ずいぶん助かります。そして私たち日本人にとっても、せっかく近くにこんな多くの外国の方がいらつしやるわけですから、彼らと交わることは格好の異文化理解、異文化学習の機会になると思うんです。ですからこの活動は、ボランティアであると同時に、子どもたちを含め、私たちにとっても国際理解の学習の場でもあると思っています」と東さん。ICIXでは現在、NPO法人格を申請中とのことです。が、まずまずの充実が期待されます。

外国の絵本を子どもたちに 読み聞かせ

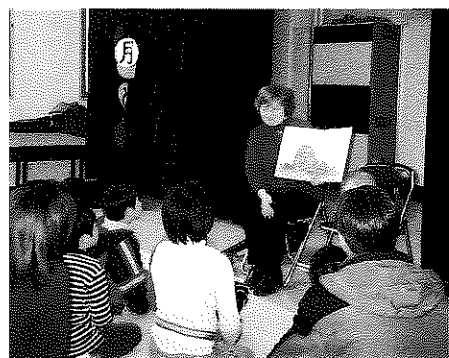
さて、東さんが取り組んでいるもう一つの活動が、和泉市立図書館で開かれてい、外国語に「読み聞かせ」「おはな

したまてばこ」の活動です。これは毎月、英語やスペイン語、タイ語、ノルウェー語や中国語などで子どもたちに絵本などを読み聞かせするというもので、始まってまだ2年ほどの活動ですが、東さんはこの活動の代表を務めています。

「もともとは図書館に、和泉南ロータリークラブから外国の絵本の寄贈があったのがきっかけ。館長さんから、この絵本をなんとか利用できないものか、と相談があり、それなら外国の方たちにも手伝ってもらい、子どもたちに読み聞かせを」とスタートさせました」と東さん。読み聞かせは、まずネイティブの人が母国語で絵本の文字をスピーチし、その後を日本語が追っかけて行なわれます。

そのことで子どもたちは、異文化を学び、世界を見る目が育まれます。

「あらためて思うのは、他の国を知ることで日本の文化の良さを再確認し、それへの愛着も生まれるということ。国際交流には、そんな意味もあるんですね」と東さんは語ってくれました。



ネイティブスピーカーが、外国の絵本を日本の子どもたちに読み聞かせ

外国人の医療をめぐる問題に、ボランティアに寄り添う

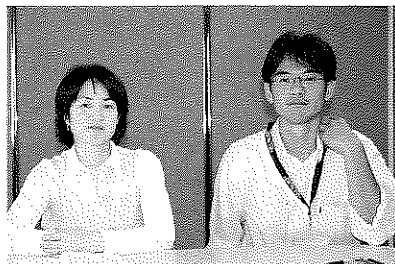
みのお外国人医療 サポートネット

団体直通電話：090-5060-3849

(財)箕面市国際交流協会

住所：箕面市栗生間谷西1-2-1
TEL072-727-6912

埋橋（うずはし）さん（左）と今峰さん



医療現場では、言葉の壁が深刻な問題として存在している

いま箕面市に暮らす外国人は、約70か国の1800人以上と言われている。箕面市内には、大阪外国語大学、千里国際学園、また近隣には大阪大学、国際協力事業団（JICA）などがあり、いわゆるニューカマーと言われる外国人市民も数多く住んでいます。

彼らが地域社会のなかで安心して暮らしていくためには、自治体行政のさまざまな施策と同時に、そこに暮らす日本人の理解と協力、そして積極的なボランティア活動が望まれるのは言うまでもありません。

このような状況をふまえ、箕面市は、(財)箕面市国際交流協会を設立し、そこを拠点として国際交流ボランティアバンクの設置（92年）、国際市民活動サポート制度の設置（99年）、さらに外国人市民ネットワーク事業の開催（00年）など、在住外国人に対する先進的な施策を展開してきました。

また海外の都市とのさまざまな交流や、多文化共生を理解するための「地球市民セミナー」の開催など、市民も積極的に参加する多彩な活動に取り組んでいます。

そのような市民活動から生まれたのが「みのお外国人医療サポートネット」の取り組みで、これは、箕面市に在住する外国人の医療にまつわるさまざまな事柄について、ボランティアに寄り添いながら彼らの生活をサポートしていくというものです。

「外国人にとっては、病



気や怪我をして、院に行かなければならなくなったとき、言葉の壁がとりわけ深刻なものとなります。もちろん、医療機関や自治体が主体となって医療通訳の制度づくりを進めていくことが望ましいわけですが、同時に、私たちも同じ地域に暮らす市民として、できることから始めよう、と3年前に準備会を発足させ、市や国際交流協会と共催し、さまざまな活動に取り組んでいるわけです」と同ネットの代表、埋橋淑子さんは語ります。

外国人にとって住みやすい町は、日本人にとっても住みやすい町

その活動は、受診・診療時の同行・通訳ボランティアの派遣、医療一般や健康に関する情報の提供、相談窓口の紹介など、かなり専門的なものから気軽にできるものまで多岐に渡ります。

「一般的に外国人は、子どもの教育の問題、医療の問題、そして孤独の問題の3つを抱えていると考えています。そのうち、私たちは医療の問題に関わりながら、彼らの生活を少しでもサポートしたいと思っています。なかでも医療通訳と言うのはかなり専門的なスキルが必要

で、これまで職業としても、ボランティア活動の分野としても確立されてこなかった領域です。このようなうちとむずかしいですが新しい活動に、いま32人の会員がボランティアとして取り組んでいます。」と埋橋さん。

医療通訳ともなると、正確な通訳が求められるのは言うまでもありません。そこで会では、問診表を題材に、その正確な翻訳のトレーニングをしたり、医師をゲストスピーカーに迎えての学習会の開催などで、会員のスキルアップに積極的に取り組んでいます。「でもそのベースには、隣人としてできることをして助け合いたい、という素直な感情があります」とも埋橋さん。

「皆さんの熱心さには頭がさがりますが、外国人にとっても住みやすい町は結局、日本人にとっても住みやすい町なんです。箕面には、留学生だけでなく、家族滞在者や就労者など様々な外国人市民が多く住んでいますので、これからも埋橋さんたちと協力して医療サポート活動を進めていきたい」と語るのは、箕面市国際交流協会職員の今峰秀樹さん。こうした活動を含めて、さまざまな地域で、さまざまな形で国際交流が、いま大阪府内で進められています。



日頃慣れない医療面のサポートもするため、研修にも熱がこもります

北 摂

「難病について」を テーマに講演会

去る6月10日、北摂ブロック交流会が茨木市の福祉文化会館で開催されました。梅雨入りのために不安定な天候の中、総勢約70名あまりの参加をいただきました。

まず、オープニングにVG「友和会」が大正琴・三味線による「越後獅子」の演奏を、続いてVG「奈良すずらん会」による民謡「花笠音頭」の披露があり、なかなか楽しい雰囲気のうち

に始まりました。

開催にあたり、茨木市社会福祉協議会の橋本会長、茨木市ボランティア連絡会の大藪会長からの挨拶の後、「難病について」をテーマに講演が行われました。

はじめに茨木保険所所長より難病に対する事業についての説明があり、続いて神経内科医・上野豊氏より難病についての話がありました。話のなか



で、「難病には原因のわからないものが多く、最終的には在宅医療になることがあるので、介護にかかわる側にボランティアがどのように取り組んでいくべきか」などの

問題提起もありました。

その後、難病ケースのボランティア活動経験のあるVG「みどり」「ふたば」のメンバーから活動発表、さらに難病を経験された方からの質疑応答などもあり、ボランティアの一員としていろいろと考えさせられる交流会となりました。

茨木市ボランティア連絡会 檀 久枝



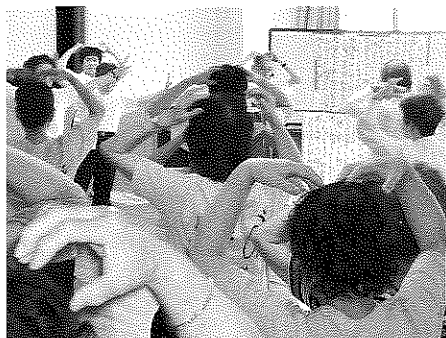
河 北

ブロック交流会の レポートと感想

梅雨に入ったというのに、カラリと晴天の6月21日、多目的室は若さいっぱいの人たちも見えて、あふれんばかりの熱気です。

日頃はお齢を召した方々と一緒にいる私たちは緊張で体が固くなりましたが、「歌体操を知っていただく最高の機会」と、力をこめて演じました。

メニューに懐かしい季節の歌や歌謡曲を盛り込んだこともあってか、会場の皆様は本当に喜んでくださいました。互いに手をつなぎ、二重の輪をつくり、スキンシップ満喫で楽しむ「六甲おろし」「二人は若い」では笑顔々々の花園のようでした。



阪神タイガースの快進撃が、大きくフォローしてくれたのかも知れませんが、

終わったあと、多くの方々が「楽しかったよ」「みんなと一緒にできるの



第10回守口市社会福祉協議会 ボランティアフェスティバル

日時 平成15年7月19日(土) 10:00~15:00
場所 さつきホールもりぐち(市民会館)
 地下鉄谷町線守口駅④番口右へ徒歩1分
 京阪電車守口市駅北へ徒歩7分
内容 ①ボランティアグループ展
 模擬店、バザー、手作り玩具、活動紹介等
 ②ボランティア体験学習コーナー
 高齢者疑似体験、車椅子、点字、歌体操等
 ③福祉機器展示
 ④人形劇、紙芝居のミニステージ
 ⑤大阪府立淀川工業高等学校吹奏楽部
 1年生によるファーストコンサート(無料)
問合せ 守口市社会福祉協議会ボランティアセンター
 TEL 06-6992-2715

「いいね」と言ってくださり、メンバー18名ホッといたしました。
 「登録グループのつながりに、ささやかながら貢献できた」大きな喜びを抱いて、私たちはボランティア活動を続けて参りたいと思います。
 いきいき歌体操寝屋川グループ
 磯江 芳子

が体中を駆けめぐります。今日も出席して、本当によかったと思わせていただいた一日でした。
 S・Y

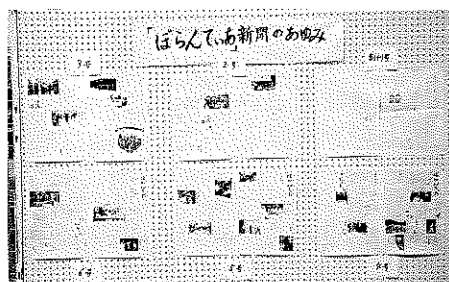


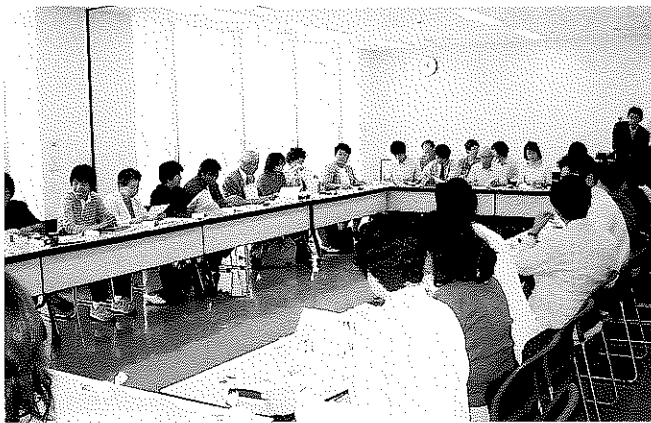
わが町・河南町は、金剛山と葛城山の麓にある、緑に囲まれた小さな自然豊かな町です。河南町にある「やまなみホール」を中心に、毎年5月の第3日曜日に健康福祉まつりが行われます。町内の各種団体が参加するこの催しは、参加する団体がそれぞれの持ち味を出す楽しいイベントです。
 私たちボランティア連絡会は、手作りで発行している「ボランティア新聞」を「10年の歩み」としてパネル展示。

河南

楽しかったよ！ 健康福祉まつり

また高齢者疑似体験や点字パソコン体験、環境ボランティアが作った竹炭の販売、ボランティアが早朝から作った「かやく御飯」の販売など、盛り沢山のメニューで参加しました。
 少し欲張りすぎて、大忙し。とくに竹林公害の話(竹炭の出来るまで)や、点字がパソコンで打てることに参加者は興味を持たれたようで、高齢者疑似体験にも多くの町民の方が、驚きながらも楽しく体験されました。
 小さな町の小さな催しですが、こうした体験からボランティア活動の一端を感じていただけたことと喜んでいきます。
 河南町ボランティア連絡会 近藤雅美





泉州

和泉市新時代のシンボル 「和泉シティプラザ」にて 泉州ブロック交流会

泉州ブロック交流会を6月8日(日)に、本年度4月27日オープンの「和泉シティプラザ」(市民の生活・文化の活動拠点と新都心のオアシスが融合した複合施設)にて開催しました。当日は、日曜日のブロック交流会にもかかわらず各市町ボラ連、担当職員等、40

名の方々に参加していただきました。

午前中のブロック交流会は、ボラ連会長の北垣さんの挨拶にはじまり、「アイ・あいロビー」のボランティアコーディネーター・村田さんによる「アイ・あいロビー」5年間のボランティア活動報告をしていただき、その後の各市町・活動報告会では、各ブロックでのいろいろな異なる形態のボランティアサロンの紹介が活発になされました。

報告会終了後は、「和泉シティプラザ」をビデオにて紹介、和泉市立シティプラザ図書館と「弥生の風ホール」、「アイ・あいロビー」の見学。午後からは一般市民も参加し、「弥生の風ホール」にて「アイ・あいロビー」5周年記念イベント「山田パンダさんの講演と



イブ・広がれ! ボランティアネットワークの輪」を開催しました。山田パンダさんはフォークグループ「かぐや姫」のメンバーであり、解散後は保育園にて保育補助員も勤められ、当日はその経験を生かした講演に加え、会場は大いに盛り上がりました。最後は、おみ



やげのお花の抽選会で終了。

今回のブロック交流会は、「和泉シティプラザ」見学、和泉ボランティア市民プラザ「アイ・あいロビー」5周年記念イベントと、たいへん忙しい交流会となりました。この場をお借りして、交流会に参加していただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。「どうもありがとうございます」。

和泉ボランティア市民プラザ
「アイ・あいロビー」
運営委員長 東 節子



市町村ボランティア連絡会 総会を開催

5月17日、大阪社会福祉指導センター5階ホールにて、平成15年度大阪府市町村ボランティア連絡会の総会が開催されました。

事業報告・決算報告に続く役員改正の後、今年度の事業計画・予算案が提案され、拍手で承認されました。

第2部は、「いのち輝くとき」「ふれあい・子育てサロン」という2本のビデオ上映。参加者はあらためて、地域に密着したボランティア活動の重要性を確認しました。なお、新役員は以下の通りです。



会長

北垣 登美（守口市ボランティア連絡会）

副会長

大藪 幸雄（茨木市ボランティア連絡会）

山田 雪枝（大東市ボランティア連絡会）

堀 光雄（東大阪市ボランティア連絡会）

立石 房子（岸和田市ボランティア連絡会）

幹事

新家 末子（豊中市社協ボランティア団体連絡会）

帰山哲太郎（寝屋川市社協登録
ボランティアグループ連絡会）

谷本 博（藤井寺市ボランティア連絡会）

大島しげ子（貝塚市社協ボランティア連絡会）

監査役

井上 靖雄（大阪狭山市ボランティアグループ
連絡会）

辻 幸子（熊取町ボランティア連絡会）

会計

中 恵子（豊能町ボランティア連絡会）



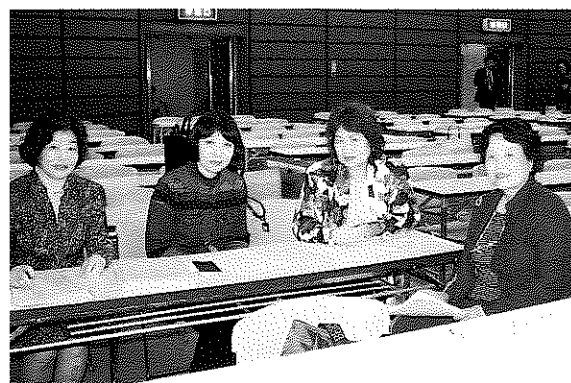
広報部会

部会長 東 節子（和泉市アイ・あいロビー運営委員会）

井川美知子（摂津市ボランティア連絡協議会）

網谷 朝代（門真市ボランティア連絡会）

近藤 雅美（河南町ボランティア連絡会）



バリアフリー部会

部会長 畠山 康子（柏原市ボランティア連絡会）

吉田 由巳（高槻市ボランティア連絡協議会）

栗原清美子（交野市ボランティアグループ連絡会）

上田 怜子（高石市ボランティア連絡会）



3

アジア家庭料理教室 参加者募集

活動内容：各国の料理を作って楽しみましょう。

日時：6月12日・19日(木) フィリピン料理／7月11日・18日(金) モンゴル料理／9月11日・18日(木) タイ料理／10月16日・23日(木) インドネシア料理教室／11月13日・20日(木) 韓国料理／12月11日・18日(木) マレーシア料理 (18:30～21:30 各国2日間同じ内容で行います)

場所：クレオ大阪西 (JR/阪神西九条駅下車3分)

費用：2800円 時間：開催日の前々日以降のキャンセル・変更につきましてはキャンセル料1000円を申し受けます。

持参するもの：エプロン・ふきん・筆記用具・保存容器。

問合せ先：TEL 06-6444-0587

(社団) アジア協会 アジア友の会

4

保育園にて子どもたちと 一緒に遊ぼう！

活動内容：0歳～5歳児と共に、一緒に汗を流しませんか？ 保育士の補助をお願いします。食事・排泄・着脱等の介助、給食配膳、午睡準備、清掃等。

日時：7月15日～8月31日 (希望される日のみの参加も可)。

場所：門真市勝里町 おおわだ保育園 (京阪電車 大和田駅下車徒歩8分)

募集対象：青少年 初心者歓迎 (保育士をめざしている方)

費用：食事補助あり

問合せ先：友愛福祉会 おおわだ保育園

TEL 072-882-3255

※事前研修あり オリエンテーション

5

肢体不自由者の レクリエーションのお手伝いを

活動内容：年間を通じて肢体不自由の障害をもつ人たちと一緒に、キャンプやクリスマス会、雪あそびなどを行う際のお手伝いをお願いします。

日時：月1回～3回程度

場所：大阪市中央区森ノ宮中央2-13-33 府立青少年会館

募集対象：青少年 (高校生は不可)、社会人、初心者歓迎

問合せ先：大阪府肢体不自由者協会

E-MAIL: fushikyo@zj8so-net.ne.jp

※随時、事前研修を行っています。

Vクリッピング ボード

ボランティアをやってみよう！
そんなあなたに耳寄りな情報満載



〈ご利用にあたって〉ボランティア活動へ参加を希望される方は、事前に各団体にお問い合わせの上、条件等を話し合ってから、参加してください。

●このたび、「大阪ボランティア情報ネットワーク」の情報は、全国社会福祉協議会の運営する「ボランティア情報コーナー」へ移行いたしました。

<http://www.oyn.gr.jp/>

(直接のURL: <http://www3.shakyo.or.jp/CDVC/>)

1

移送サービスのボランティアを はじめませんか

羽曳野市社会福祉協議会の移送サービスにご協力していただけるボランティアさんを募集しています。

活動内容：普通運転免許をお持ちの方は運転を、免許のない方は助手をお願いします。介助などは同行者が行います。

日時：平日の9:00～17:00の間で

場所：羽曳野市とその周辺市町

募集対象：社会人、シニア、主婦、初心者歓迎

問合せ先：TEL 0729-58-235

羽曳野市社会福祉協議会ボランティアセンター

2

大阪市要約筆記奉仕員 養成講座受講生募集

活動内容：聴覚障害者の方のための筆記による通訳のボランティアを募集。手書きコースとパソコンコースがあります。

日時：平成15年9月6日から、平成16年1月24日までの計16回 13:30～16:30

場所：大阪市長居障害者スポーツセンター

募集対象：社会人

費用：資料代1000円

申し込み：8月25日までに往復葉書にコース別、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、受講動機を書いて郵送

問合せ先：TEL 06-6931-6141

大阪市城東区今福西2-18-5-901

大阪市中途失聴・難聴者協会

Hello! ボランティアセンター

寝屋川市社会福祉協議会 ボランティアセンター

寝屋川市池田西町28-22市立総合センター内

TEL 072-838-0400

FAX 072-838-0166

活躍する、校区福祉委員会のボランティア部会

寝屋川市社協ボランティアセンターでは、32の団体（会員総数は400人近くにのぼります）を組織して全市的な活動を展開するとともに、小学校区ごとに24の校区福祉委員会ボランティア部会があり、地域に密着した活動はここが担い、この二つが車の両輪になって全体のボランティア活動を盛り上げています。

「団体が32もありますから、点訳、手話、朗読、要約筆記、日曜大工、そして歌体操、高齢者支援、精神保健…と一通りの活動メニューが揃っています。加えて民謡や日本舞踊、ジャズやラテンを演奏するバンドもあり、こうしたグループや21人の個人登録ボランティアが、趣味や特技を活かして福祉施設などを訪問。また学校から総合学習の講師派遣を依頼されることもあり、こうした場合は子どもたちに伝承あそびを教えるグループが活躍したり…と多彩な団体とタレントの存在が自慢です」と吉田聡子さん。



左から橋本さん、濱吉さん、吉田さん



子どもたちに伝承あそびを教える「わくわく未来塾」の活動

「一方、24の校区福祉委員会ボランティア部会の活動も活発で、「こちらは地域に密着している分、きめ細かな活動が可能。在宅高齢者の見守りをはじめ、外出援助や会食会を開催したり、最近では子育てサロンの活動を始めた校区も増えてきています」と濱吉信彰さん。小地域ならではの特性を発揮し、きめ細かな高齢者や障害児の個別援助活動を展開しているとのこと。

そしてセンターのコーディネートは、橋本美都子さんから4人のボランティア相談員が担っています。「月・水・金は私たち4人が分担して市民からの相談に当たっています」と橋本さん。昨年には市民活動センターも発足し、寝屋川の市民活動・ボランティア活動はますます活性化していきそうです。

池田市社会福祉協議会 ボランティアセンター

池田市満寿美町6-23

TEL 072-753-8858

FAX 072-753-3444

今年3月に「ボランティアの意識調査報告書」を発表

3年前にボランティア市民会議を発足させ、また条例を制定して公益活動促進協議会なども発足させている池田市は、大阪府内でも注目される動きをみせる市町村の一つです。



拡大写本の制作グループ「アイリス」

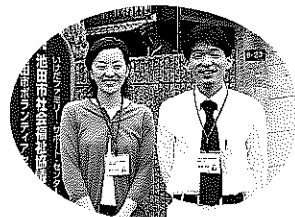
そんな池田のボランティアセンターの開設は平成元年。いまでは33の登録グループを擁し、年間のべ1000人以上のボランティアが活動する拠点として地域にしっかりと根を張っています。

33の登録グループのうち、28団体が組織されたボランティア連絡会の活動も活発で、毎月の定例会の他、バザーでの資金集め、さまざまなボランティア講座の開催などを行っています。また、池田にはサラリーマンOB会という退職者のグループがあり、約160名が「環境」「福祉」「パソコン」の各分野で活動しています。

「毎年、夏のボランティア体験プログラムを箕面市・豊能町と合同で行っており、そのスケールメリットで年ごとの参加者も増加。また10人のボランティア・コーディネーターが活躍しており、多様なニーズにきめ細かく対応しています。またホームページは一年前にボランティアの協力を得て立ち上げましたが、メールマガジンも発行し、電話や来所に加えてメールでの問い合わせにも対応しています」とコーディネーターの南野宏樹さん。

そして「手話・点字・要約筆記・拡大写本などのボランティア講座も活発で、入門編からステップアップまでフォローしています」と主事の澤村さおりさん。

さて、そんな池田市ボランティアセンターとボランティア連絡会では昨年、連絡会所属のボランティア713名を対象にした「ボランティアの意識調査」を行い、今年3月、その「報告書」をまとめました。この種の本格的な調査は府内でも珍しく、他の市町村にとっても参考になりそうです。



澤村さおりさんと南野宏樹さん

ボランティア・市民活動保険のごあんない

取扱保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア保険						
補償内容		ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。				
補償金額	損害部分	本人のケガ ボランティア	Bプラン		Cプラン（天災担保）	
			死亡・後遺障害 2,445.6万円		死亡・後遺障害 1,102.4万円	
			入院（1日あたり）8,700円		入院（1日あたり）5,900円	
			通院（1日あたり）5,600円		通院（1日あたり）3,800円	
			手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額			
		特定感染症 補償します		補償します		
	天災 ×		補償します			
	賠償部分	対人	対人、対物共通 最高 4億円		対人、対物共通 最高 4億円	
対物						
見舞金	死亡	本人の死亡	死亡 30万円		死亡 30万円	
	死亡見舞金	本人の死亡				
掛金	ボランティア1名 年間（中途加入でも同じ）					
	500円		700円			
加入できる人や対象となる活動		・無償であること（交通費、食事代など除く） ・自助活動ではないこと ・活動のための会議や、往復途上も含む				
保険有効期間		毎年4月1日から翌年3月31日まで （中途加入の場合は受付日の翌日から）				

各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険							
補償内容		ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。					
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	Ⅰ型（宿泊なし）		Ⅱ型（宿泊あり）		
			死亡		500万円		
			後遺障害		15～500万円		
			入院（1日あたり）		3,000円		
			通院（1日あたり）		2,000円		
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額						
	賠償部分	対人	1名あたり 最高1億円 1事故あたり 最高2億円				
		対物	1事故あたり 最高500万円				
見舞金	死亡	本人の					
掛金			Ⅰ型		Ⅱ型		
	A区分	30円	1泊2日	248円	4泊5日	328円	
	B区分	128円	2泊3日	256円	5泊6日	336円	
	C区分	251円	3泊4日	264円	6泊7日	344円	
加入できる人や対象となる活動			ボランティア団体や市民団体が主催する行事 （スポーツ活動や自助活動も含む）				
保険有効期間			行事期間中 （開催1週間前までに受付が必要）				

各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険						
補償内容		ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。				
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	Aプラン	Bプラン		
			死亡	202万円	死亡	500万円
			後遺障害	6～202万円	後遺障害	15～500万円
			入院（1日あたり）	3,000円		
			通院（1日あたり）	2,000円		
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額					
	賠償部分	対人	1名あたり 1事故あたり	1億円 2億円		
対物		500万円				
見舞金	死亡・本人の					
掛金	Aプラン		Bプラン			
	4,900円		6,300円			
加入できる人や対象となる活動		営利目的ではないが、利用者から実費を越える報酬を得ている活動、団体				
保険有効期間		毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日～)				

移送サービス活動に 移送中事故傷害保険						
補償内容		移送サービス事業の活動中に、車輛に搭乗中の加入者や利用者がケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。				
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	I 型（車輛特定）	II 型（車輛不特定）		
			死亡	266.1万円	死亡	192.4万円
			後遺障害	7.9～266.1万円	後遺障害	5.7～192.4万円
			入院（1日あたり）	3,000円		
			通院（1日あたり）	2,000円		
		手術保険金／入院保険金月額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額				
	賠償部分	対人				
		対物				
	見舞金	死亡	本人の			
	掛金		I 型	II 型		
		2,000円 （車定員1名あたり）	2,000円 （記名利用者1名あたり）			
加入できる人や対象となる活動		移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者				
保険有効期間		毎年4月1日から翌年4月1日まで （中途加入者は翌月15日～）				

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともに申し込みにください



三井住友海上火災保険株式会社

ホームページ www.ms-ins.com カスタマーセンター ☎ 0120-63-2277 携帯電話・PHSからはTEL.03-3615-3111 受付時間 平日9:15~20:00 土日祝日9:15~17:00